第６学年「てつがく」学習指導案

授業者　岡田　紘子

２月１６日（木）２階Ａ室　９：００～９：４０

１　単元名　　身近な疑問から「人間の命と蚊の命の価値は違うのか」

２　考える価値内容　生命（世界・科学）

３　単元について

子どもたちから哲学対話してみたい問いを紙に書いて出し合い，分類した。その中で，子どもたちの興味が高かった問いの１つが，「生命」に関係する内容だった。あらためて，「生命」というキーワードから，それに関連した問いを作る時間を設けた。子どもたちから出てきた問いの中で，特にみんなで対話したいとあがった問いは以下の通りである。

・人間の命と蚊の命の価値は違うのか　・なぜ人は簡単に死ねというのか　・なぜ男女の区別があるのか ・人間は他の動物の命を大切にしているのか　・胎児はどこからが人間なのか ・赤ちゃんは生まれたとき、何を考えているのか　・人は死んだ後何を考えるのか

本時ではこの中から一番話し合ってみたいという人数が多かった「人間の命と蚊の命の価値は違うのか」という問いでてつがく対話を行う。「人間の命と蚊の命の価値は違うのか」という問いを考えるには，前提となることを明らかにするために，複数の問いが必要になってくる。例えば，「命の価値に差はあるのか」「命を奪ってもよいのはどんなときなのか」「命の価値を計ることはできるのか」…といった前提となる問いを明らかにしていくことで，根源的な問いに迫ってくる。問いが対話の中で変化していくと考えられるが，その都度，教師が今何について対話しているのか論点を整理しながら，子どもたちとてつがく対話を楽しみたい。

「命の価値」についての問いは，簡単に答えがでる問題ではない。蚊と人間の命の価値について，直感では価値が違うが，論理的に考えると命に軽重をつけることは危険なこととなるだろう。この矛盾が今回の問いのおもしろさでもある。もし価値に違いがあるとしたら，その基準は何なのだろう。軽んじてよい命などないはずなのに，どうして蚊を殺すことに罪悪感を感じないのだろうか。罪悪感を感じる境界線はどこなのだろう。比べる対象が虫と人間ではなく，同じ人間同士だったら，「命の価値」に差はないのだろうか。直感と論理の間を揺さぶりながらゆっくり子どもたちと一緒に「命の価値」について探究していきたい。

４　学習活動計画（全４時間）

○「生命」というキーワードから，問いを作る。

○決まった問いに対する自分の考えを書く

○てつがく対話を行う。（本時）

○これまでの授業を振り返って，自己評価を行う。

５　本時の学習について

（１）本時のねらい

問いについて，他者と対話する中で，自分の考えを深めることができる。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　問いの確認 「人間の命と蚊の命の価値は違うのか？」	○１つ１つの言葉を大切にしながら対話を進める。
２　対話スタート 問いを出したM君から，なぜこの問いを出したのか理由を聞いてから，対話をスタートさせる。	○対話をゆっくり進行させること，沈黙を恐れないこと，分からないことを大事にすること（大人も子どもも），「意見」よりも「質問」に注意を向けることを大切にする。
３　対話の振り返り てつがく帳に，「今日のてつがく対話で分からなくなったこと，新たな問い，不思議に思ったこと」などを書く。	